

令和元年度 第3回浦安市文化財審議会議事録（議事要旨）

- 1 開催日時 令和元年11月13日（水） 午前10時～12時30分
- 2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室
- 3 出席者
（委員）菊池委員長、大塚副委員長、吉田委員、明保委員、森田委員
※ 穎原委員、大村委員は欠席
（事務局）八田生涯学習部長、高梨生涯学習部次長、金子館長、島村、尾上、袖山（記）
（傍聴人）なし

4 議 事 報告事項

- (1) 令和元年度上半期 浦安市郷土博物館の利用状況等報告について
- (2) 「ふるさと浦安作品展」の開催結果報告について
- (3) 豊受神社イチョウ樹勢診断業務委託事業の結果報告について
- (4) 大塚勉写真展「浦安に生まれて」の視察および意見聴取

5 会議経過

会議に先立ち、菊池委員長の挨拶後、教育委員会を代表して八田生涯学習部長があいさつを行った。

(1) 令和元年度上半期 浦安市郷土博物館の利用状況等報告について

配布資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 夏休み期間の体験教室の中で、鉄を使ったスプーンづくりが素晴らしかった。参加者や、また鉄鋼団地の皆さんが一生懸命で、見ていて嬉しくなった。
- (事務局) 鉄を使った工作教室は、鉄鋼団地が用意したプレートを加工し、スプーンと、またS字フックも制作した。鉄鋼団地の企画展以降、毎年無償で行ってくれている。来年も開催できるようお願いしている。
- (委員) 鉄鋼団地の方が工作台なども持ち込んでくれており、子供たちは道具を使ってきちんとものづくりの体験ができるのが良い。
- (委員長) 鉄鋼団地の企画展の開催以降、鉄鋼団地との関わりが増えていると思う。
- (事務局) 近年鉄鋼団地が市の産業として市民に認知されてきたこともあり、博物館を媒体としてPRしていければと思っている。お互いに良い関係を築いていきたい。
- (委員長) 博物館において、近代的なものや新しいものについて体験することはなかなかできない。輪を広げてほしい。
- (委員) 作ったものを持って帰れるのが良い。大人でも参加したいと思う。ぜひ続けてほしい。
- (委員長) 博公連携事業のわらぞうりづくりについて、公民館側からこのような体験

教室の開催要望があったのか。それとも博物館から持ち込んだのか。

- (事務局) わらぞうりづくりも含め、博公連携事業については、博物館の事業をより市民に広めるために、公民館で開催することを博物館から提案した。わらぞうりづくりは、海苔すきに使うわらを利用できないかと考え、市川歴史博物館などにアドバイスを受け、ボランティアを募集するところから始めた。現在では、市民活動センターの布ぞうりづくりのボランティアにもお手伝いいただいております、3年ほど続けている。
- (委員長) わらぞうりは、作ったあとの使い道があまりないのではないかと。
- (事務局) 以前は、作ったわらぞうりを履いて旧市街地を歩くなどしていたが、時間の制約もあり難しい。

(2) 「ふるさと浦安作品展」の開催結果報告について

配布資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 小学1年生が教育長賞を受賞しているが、審査基準はどうなっているのか。
- (事務局) 学年ごとの能力によって出来栄には差があり、学年に応じた評価を行うことを、審査員共通の認識としている。審査基準の明確化について、審査員からも意見が出ている。今後審査基準を明確にしていく。
- (委員) 審査結果に意見が寄せられることはあるのか。
- (事務局) 作品への親の協力の是非など、ご意見をいただいたこともある。
- (委員) 毎年作品展を見ているが、例えば博物館でスプーンづくりを行ったうえで、鉄鋼団地について調べている作品などがあつた。体験を通し肌で感じながらまとめたり、新しい学び方であると感じた。学び方の多様性を感じた。審査員の中でも、生徒が足で稼いだ努力を評価する人もいれば、継続した努力を評価する人もいる。厳密な審査基準は難しいと思う。3年生は鉄鋼団地、4年生はクリーンセンターの見学があり、5年生は学習範囲が全国範囲に広がる。それぞれの学年の学習範囲が作品作りのきっかけになっていると思う。
- (委員) 発表、表彰のあとの成果物が大事だと思う。表彰されてどう思ったか、などの文章を書かせると良いのでは。
- (事務局) 今年度は台風の影響で中止となったが、表彰式では、生徒が学習の感想と成果発表を行っている。各学校において、博物館活用推進委員会を中心に、フォローアップを行っていききたい。
- (委員) 富岡中の参加数、出展数が0なのは何故か。
- (事務局) 中学2年生は、多くの学校では宿題という形で提出を促している。しかし富岡中においては、自由参加というような形になり、作品展について浸透しなかった。今後中学校における取り組みを考えていきたい。
- (委員) 中学2年生の社会科では地域学習という単元があり、その中で行うケースが多い。中学生がたくさん提出していることを評価したい。
- (委員) 作品展の成果と課題について、今討議する必要はあるのか。

- (事務局) 今回の作品展の成果と課題については、11月15日(金)に開催する博物館活用推進委員会において、報告と討議を行う予定である。今後の取り組みや審査基準についても検討する。
- (委員長) 次回の文化財審議会において、検討事項について報告してほしい。
- (委員長) 作品について、新しいアプローチが増えたという一方で、マンネリ化しているという意見もあるようだ。矛盾があるようだが。
- (事務局) テーマが重複することはあるが、そのテーマに取り組む生徒にとっては、初めての経験となる。一方で、毎年審査している先生方は、内容を含めて新しい視点を求めているようだ。1年生が浦安について愛着を持って調べる作品と、高学年が「こうしていきたい」と提案する作品と、それぞれがある。内容の多様性を求めているのではと感じている。
- (委員) 確かに、マンネリ化というのは見る方からの視点で、作る生徒は初めてということもあると思う。
- (事務局) 作品の提出について、中学2年生は宿題として提出しているが、中学1年生も自主的に提出し、賞を獲得している生徒もいる。これらの生徒は小学6年生の時から継続していると思われ、そういった生徒がいることも承知してほしい。

(3) 豊受神社イチョウ樹勢診断業務委託事業の結果報告について

配布資料をもとに、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 台風の影響で豊受神社のけやきが倒れたが、大銀杏は支柱がしっかりしていて、無事であった。
- (事務局) 大銀杏は枝が数本折れた程度の被害で済んだ。
- (委員) 市の天然記念物は、大銀杏の他にもあるのか。
- (事務局) 豊受神社の大銀杏のみである。
- (委員長) 長期的な対処とは、これから何年もかかるのか。1,2年のことなのか。
- (事務局) 処置については、近々に行ってほしいと伝えている。樹勢診断という現状把握調査については、今後計画的に行っていきたい。
- (委員) 木の管理は難しいと思う。樹勢診断だけでなく、風などの対応も含めて必要になってくるのではないか。例えば、街路樹が被害を受けると、停電や交通事故にも繋がりがねないと思う。
- (委員長) 大変かとは思いますが頑張してほしい。

(4) 大塚勉写真展「浦安に生まれて」の視察および意見聴取

配布資料をもとに、事務局より説明した。その後、企画展示室にて写真展の視察を行った。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員長) 写真を見ただけでは、場所などがわからない部分もあるのではないか。学芸員の解説、補足などはあるのか。
- (事務局) 撮影者である大塚先生に確認したり、また来館者から情報を収集するのも

写真展の目的としている。収蔵品として登録する際に情報をまとめて、後世に残したい。

(委員) 写真の場所が現在どうなっているかわかると良い。

(委員) 映像もあり、印象に残った。

■ 次回の会議

第4回浦安市文化財審議会は、2月19日(水)を予定。

以上をもって、令和元年度 第3回浦安市文化財審議会は、閉会した。